

平原岳の歴史

平原岳山中はその昔、美保と楡小野及び嘉川を結ぶ交通の要所とされていて、麓の宛木埵付近には医者(天保6年没の瑞峯?)の屋敷もあったそうです。

※¹本来、「平原岳」の名称には「嶽」という文字も用いられていたほか、美保登山口から「一般登山道」を進んでいく途中に、竜神社(明治になって「水神社」に改められる)が祀られていることなどから、美保、塩見埵、禅定寺山および羽根越と同じく、当時この地が修験道ゆかりの地であつたらしいことがうかがえます。

美保登山道口から「観音岩コース」を進んでいくと、途中高さ10m位の夫婦岩が並立しており(これを「観音岩」と呼んでいます)、※²その昔、このあたりに東専寺というお寺の本尊が祀られていたそうで、地元の話しでは終戦ころまでここで供養法要が行われ、方々から沢山の参拝者が訪れていたということです。

また、岩の間の風穴には馬頭観音が祀られてあり、その昔、多くの参拝者がサルヲ(申緒)を供えて牛馬の安全を願っていたそうです。(祭日：8月10日)

※¹「防長風土注進案 15 舟木宰判 小野 櫛原」では、当時(天保13年末?)この山のことを「前嶽御立山」と記している。

※²小野郷土史研究会資料(「心の根を支えるふるさとの神さま佛さま」歴史の中に先祖が見えてくる)による。